写真上）左が古墳の前方部 ／ 写真下）古墳の山側から見た妙光寺境内と日本海

妙の光（たえのひかり）

復刊111号

妙光寺前山に『前方後円墳』

境内が花盛りの季節を迎えていますが、皆さまには新型コロナウイルスで不安な日々をお過ごしのこととお見舞い申し上げます。妙光寺でも4月29日の300年続く伝統行事『ご判様』を休止、夏の諸行事の開催方法も検討中です。今後の行事予定や直近の話題をお知らせし、少しでも皆様の安心と安らぎの一助になればと臨時増刊号を届けします。

先頃妙光寺境内に隣接する山で前方後円墳が発見され、県内の大きなニュースになりました。昨年秋に新潟大学名誉教授橋本先生が、地図上で気になる地形があるので位置を知りたいと来寺され、院首と住職でご案内して前方後円墳と確認されました。現在測量を進めていますが、きれいな外観が見えてきて調査関係者も興奮気味です。機会を見て『浄土講座』に橋本先生の古墳説明会をお願いしました。

コロナ禍で心塞がれる日々、日蓮聖人は「冬は必ず春となる」と遺されました。明けない夜は無いとの言葉もあります。前方後円墳という古代へのロマンを感じにお出かけいただく機会を楽しみに、この苦難を乗り切ってください。

通巻132号　復刊111号　2020年4月27日（季刊）　角田山妙光寺　発行 〒953-0011 新潟市西蒲区角田浜1056 TEL 0256-77-2025

facebookもあります

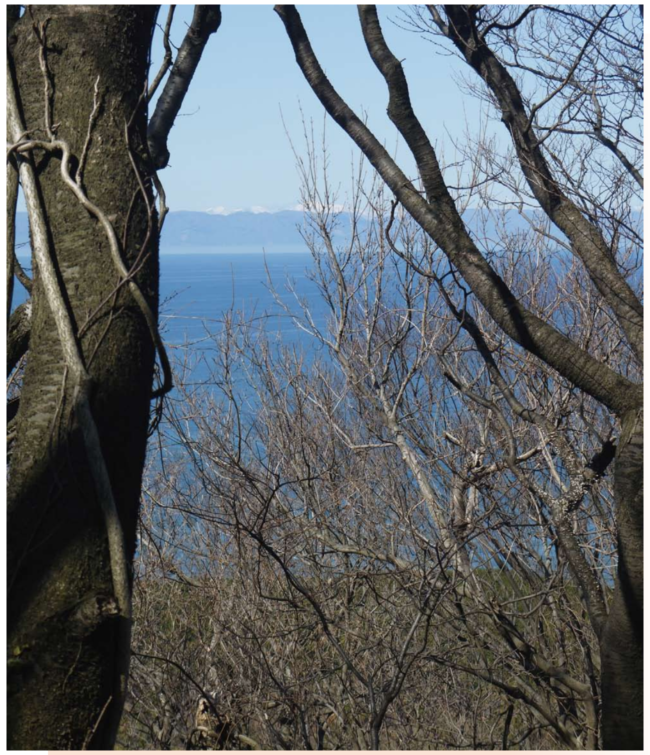
春の妙光寺

連日の測量風景

参道前方の左手の山で古墳が発見されました

お寺も暇でお坊さんたちが
古墳の下草刈りお手伝いです

境内の八重桜が満開です



古墳から海が一望で、佐渡島がま近に見えます

角田山妙光寺インフォメーション

- 古墳見学は道順案内板があり、自由に見学できます。急斜面を20分ほどの山登りのため雨天時は無理です。
- 毎月第一日曜日の信行会、15日のボランテラ、第三木曜日のヨガを５、６、７月は休止します。再開予定は次号以降でお知らせします。
- 妙光寺を式場にした法事、葬儀は広く開放的な会場ですので、適宜ご相談の上でお受けしています。
- 『お守り型緊急時連絡カード』が完成し、申込者の身体健全をご祈願してお届けしました。若干の予備がありますので、お名前は手書きになりますがご希望の方は早めにお知らせください。
- ご心配いただいています闘病中の住職の母なぎさですが、幸い薬の効果で比較的穏やかに過ごしています。
- 次回は6月1日発行を予定しています。

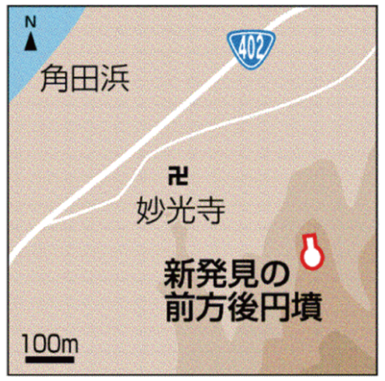
角田浜に前方後円墳

日本海沿岸部で最北

新潟西蒲区

新潟市西蒲区角田浜の急斜面上に日本海側沿岸部で最北の前方後円墳があることが4日、分かった。岡山県倉敷市の古墳研究者、藤原好二さん(51)＝倉敷埋蔵文化財センター＝が地図上で墳形の起伏を発見し、連絡を受けた新潟大学名誉教授の橋本博文さん(66)らが測量調査を実施して確認した。海上交通に関係した有力者を埋葬した可能性があるという。

これまで沿岸部最北の前方後円墳は西蒲区竹野町の菖蒲（あやめ）塚（づか）古墳（全長53㍍）。今回の発見場所はその北西に約4・5㌔離れ、角田山から角田浜へと延びる尾根の先端部。標高は100㍍余りで日本海を一望できる。



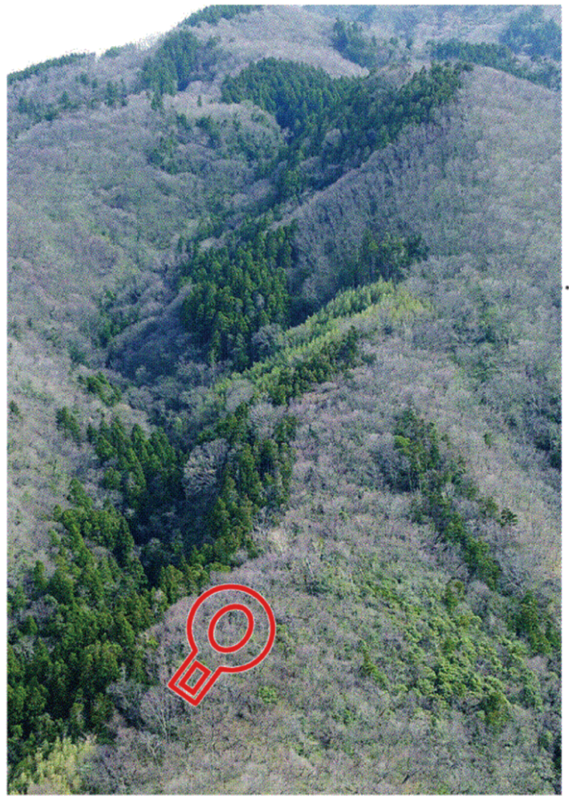
橋本さんは3、4日、文化財保存新潟県協議会メンバーと調査。前方部が海側を向き、全長は50㍍ほどあった。菖蒲塚古墳が造られた古墳時代前期後半（4世紀後半ごろ）よりも早くに造られたと推定している。

藤原さんが調べた地図は国土地理院の傾斜量図。地表面の傾きを白黒の濃淡で示してある。「菖蒲塚古墳の周辺を見たら、自然の地形とは違うものが見えた」ことが発見につながった。

海上交通の有力者埋葬か

県内には600基以上の古墳があるが、ほとんどが円墳で、前方後円墳は7基しか確認されていなかった。その墳形は大和政権が最上級クラスに位置付け、特に重視した地方の有力者にも造営を認めたとされる。

橋本さんは「海上からランドマークとなる山上に古墳があり、角田浜は越後平野の門戸に相当する」とし、海上交通の拠点があった可能性も指摘している。



前方後円墳が見つかった角田山の尾根先端部。赤線は推定図＝4日、新潟市西蒲区（本社小型無人機から）

前方後円墳

なぜ角田浜に

新潟・西蒲区

古墳の中で最上級クラスの前方後円墳がなぜ、ここに造られたのか—。新潟市西蒲区角田浜の角田山尾根先端部で4日に確認された古墳について、研究者や住民はさまざまな推測を巡らせている。海上交通や大和政権との関係を指摘する声もある。角田・弥彦山周辺や越後平野には古墳時代前期の古墳が点在しており、それらとの関係や古墳文化の波及ルートを解明する鍵になる可能性もある。古代への想像が膨らんでいる。

古墳文化、海伝い越後へ

政権、交通の要衝を狙う

県内で確認された前方後円墳は妙高市にある帆立貝形の観音平1号墳（全長26・8㍍）を含むと、今回で8基目。全国には5千基前後はあるとされ、その北限は太平洋側が岩手県奥州市、日本海側内陸部が山形県山辺町、日本海側沿岸部は新潟市西蒲区竹野町の菖蒲（あやめ）塚古墳（53㍍）から今回発見の古墳へと書き換えられた。

角田・弥彦山の内陸側には菖蒲塚のほか、そのすぐそばに隼人（はやと）塚古墳（円墳21㍍）、その南に山谷古墳（前方後方墳37㍍）と観音山古墳（円墳26㍍）、弥彦村に稲場塚古墳（前方後円墳26・3㍍）がある。

今回の発見場所近くの妙光寺院首、小川英爾さん(67)は「海側にも古墳はあると思っていた。文化は海から入ってきたと思うから」と話す。地図上で今回の古墳を発見した岡山県倉敷市の古墳研究者、藤原好二さん(51)も「海から来れば、そこは越後平野の入り口に当たる場所ではなかったか」とみる。

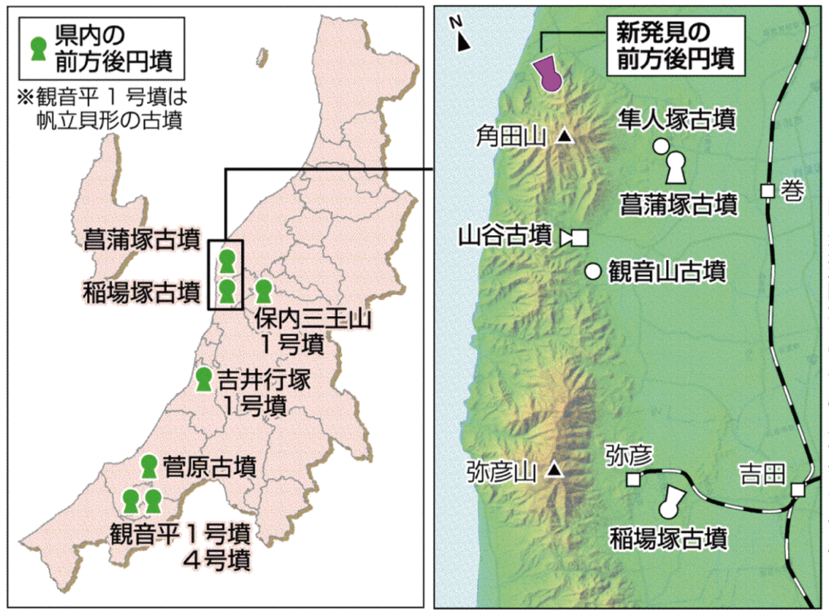
住民、研究者が推測

角田山や弥彦山が古くから海上交通のランドマークになってきた可能性は以前から指摘されてきた。元日本考古学協会会長で新潟大学教授だった故甘粕健さんは古墳が伝わったルートとして能登半島→越後平野→会津盆地を想定した。角田・弥彦山周辺をはじめ、新潟、三条市などには古墳時代前期の古墳が集中しており、中でも今回発見の古墳や稲場塚古墳は早い時期に造られたとみられる。

今回の調査にあたった新潟大学名誉教授の橋本博文さん(66)は「ヤマト政権は交通の要衝を掌握する目的で、角田浜のような場所を狙い、地域の有力者と政治的関係を結んだのではないか」と推測。他にも未知の古墳がある可能性を指摘し、県民に「古墳発見にチャレンジしてほしい」と呼び掛けている。

土を盛ったとみられる前方後円墳の後円部＝新潟市西蒲区

角田山の尾根先端部に見つかった前方後円墳。赤線は推定図。こうした急斜面の上に古墳が造られる例は少なくない（本社小型無人機から）



※山谷は前方後方墳。隼人塚と観音山は円墳。国土地理院地図電子版を加工して作成